

はじめに

学校長 馬場久志

本校では、今年度から3年間の計画で「自分の力を発揮し、生き生きとした姿をめざすキャリア教育の実践—子どもの将来を見据えた指導を求めて—」を主題とする研究を開始しました。これは昨年度まで3年間にわたって取り組んできた「知的障害のある児童生徒へのキャリア教育の在り方を探る—児童生徒の『自己実現』をめざす取り組み—」を主題とする研究の延長上にあるものです。

昨年度までの3年間の研究では、児童生徒の卒業後の生活を見据えた家庭と職場と余暇の場における将来像を鍵概念として、小・中・高の各学部が将来像の設定—具体化—現実化という段階を担うという観点での教育モデルの構築に取り組みました。各学部で一人一人の児童生徒の将来像を保護者ととも明確にする作業を重ね、これに基づく学習目標と学習計画を立案して授業を行い、その過程を評価してさらに指導に反映させるという実践を展開しました。この取り組みを経て、将来像の基盤に“よさ”という内容と観点をもつことの意味や、他方で卒業後の自立を念頭においた力の発揮の必要性を、見出しました。そして、将来像を豊かに培いながら各学部の授業や指導・支援に連動させていく具体的で総合的な取り組みを行いました。

今年度から始まった研究は、将来像を軸としたこれらの試みを継続発展させるとともに、日々の授業に根づいた教育実践として取り組んでいくことを企図しております。理論的な仮設枠組みを得て、それを授業にどう反映させるかを学校一体となって取り組んでおります。ここには、本校の追究課題である教育の一貫性と系統性をさらに向上させながら、各学部や各教員の独創性を生かした旺盛な実践研究に取り組んでいきたいということも含意されています。

本研究では「生き生きと」という姿を主題の中に取り上げました。「生き生きと」とはどうか、これは考えるほどに大変に難しい課題であると思います。将来の姿につながるものとして、生き生きとした児童生徒の学びの姿とはどういうものであるか、あらためて深くじっくりととらえ直す機会とすることを本研究は自らに課しています。生き生きと生活することは、子どもたちが自分の人生を自分らしく生きることであり、そのために学校教育ができることは何なのか、このことに一つの解を見出さなければ、キャリア教育が真に子どものものになりません。本集録で報告されている実践は、表面的でなく本当に「生き生き」とした姿はいかなるものかを追究する試みの第一報告であります。多くの皆様からのご助言をいただきながら今後さらに追究を続けていく所存です。

研究を遂行しながら私どもが大切にしてきたことは、研究成果はだれよりも子どもたちに還元されるべきであるという観点です。このことは、今後の研究においても心してまいります。

本研究の遂行にあたり、ご多忙をきわめていらっしゃる多くの先生方にご指導ご助言をたまわりました。ここにあらためて感謝申し上げます。またご協力くださった保護者の皆様、そして何より児童生徒の皆さんに深く感謝します。

第 1 章

研究の概要

『第 1 章 研究の概要』をお読み頂く前に

- 本校のキャリア教育について、簡潔に知って頂くには…



執筆した文章は、できるだけ「図・表」にまとめています。
まずは、タイトルと「図・表」を見て頂けると、おおよその内容が分かると思います。

- 本校のキャリア教育について、背景や根拠を含めて知って頂くには…



「図や表」と合わせて、ぜひ文章をお読み下さい。

研究テーマ

自分の力を発揮し、生き生きとした姿をめざすキャリア教育の実践
～子どもの将来を見据えた指導を求めて～ （1年次／3年研究）

1 研究テーマ設定の理由

本研究テーマを設定するにあたり、3年間『知的障害のある児童生徒へのキャリア教育の在り方を探る～児童生徒の「自己実現」をめざす取り組み～』（以下、前研究）に取り組んできた。本研究は前研究の成果を生かし、課題として挙げられた実践面などの充実、発展をねらい、設定した。以下、本研究のテーマ設定の理由を「1-1 前研究の概要について」「1-2 前研究の成果について」「1-3 前研究の課題について」「1-4 本校の課題の視点」から説明していく。

1-1 前研究の概要について

前研究では、社会の動向や学習指導要領、先行研究や本校の課題などの理由から、以下のように研究目的と研究仮説を設定した。

研究目的

本人及び保護者の願いを基に児童生徒の自己実現に向けた将来像を作成することを通して、知的障害のある児童生徒に対する、一人一人に応じた、一貫性・系統性のあるキャリア教育の在り方のモデルを示す。

研究仮説

児童生徒が卒業後に過ごす場は、主に「家庭」「職場」「余暇の場」の3か所である。本人及び保護者の願いを基に児童生徒の3つの場における将来像を作成することができれば、児童生徒の自己実現にむかう取り組みを、一人一人に応じて、一貫性・系統性をもって行うことができる。

このように前研究では、児童生徒一人一人に応じた、一貫性・系統性のあるキャリア教育をめざし、一人一人に「家庭」「職場」「余暇の場」の3つの場の**将来像**を作成する取り組みを行った。そして、**将来像**を下記の通りに定義し、各発達段階に対して将来像に関する役割を設定した。

【 将来像の定義 】

将来像は、自己実現をしている生活を想定した、児童生徒の23～25歳時の姿である。

小学部段階では、働く生活を開始するまでに長い年月があるため、「将来の生活を描き始める時期」と位置付け、将来像の「設定」に焦点を当てた。次に、中学部段階では、小・中・高の12年間の学校生活が後半に入る段階であることを踏まえ、「将来の生活について考えを深めていく時期」と位置付

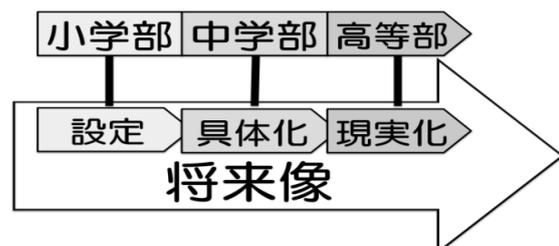


図1 各学部の将来像に関する役割

け、将来像の「具体化」をめざして実践を行った。高等部段階では、学校生活からの卒業と働く生活の始まりが近づいている段階であり、「卒業後の生活の在り方を考え、決定していく時期」であることから、将来像の「現実化」をめざして実践を行った。(図1)

この将来像の取り組みを軸とした上で、各学部你的生活年齢による時期の特徴を押さえ、学部間における系統性のある取り組みをめざすため、それぞれの学部における「将来像作成の観点」を検討し、以下表1に定めた。

表1 各学部の将来像作成の観点

	将来像の位置付け	将来像作成の観点
小学部	将来像の設定	 ○将来につなげたいよさ
	高等部を卒業し、働く生活を開始するまでに長い年月があることを踏まえ、「将来の生活を描き始める時期」と位置付け、児童が「よさ」を発揮し、活躍した場面を集め、将来像の「設定」を行う。	
中学部	将来像の具体化	 ○行動の基となる能力 ○支援の方法と程度
	小・中・高の12年間の学校生活が後半に入る段階であることを踏まえ、「将来の生活について考えを深めていく時期」と位置付け、将来像の「具体化」をめざして実践を行う。	
高等部	将来像の現実化	 ○場面 ○かかわり ○実態 ○金銭収支 ○社会状況
	学校生活からの卒業と働く生活の始まりが近づいている段階であることを踏まえ、「卒業後の生活の在り方を考え、決定していく時期」と位置付け、将来像の「現実化」をめざして実践を行う。	

このように将来像を軸とした上で、各学部你的生活年齢による時期の特徴を押さえ、学部間における系統性のある取り組みをめざして、今までの指導を見つめ直し、「キャリア教育のモデルを示す」という研究目的にむけて取り組んだ。

1-2 前研究の成果について

前研究を通して将来像や将来像作成の観点から実践を導く取り組みの過程で、様々な成果を見出すことができた。そこで、前研究の将来像を軸とする取り組みの成果について、以下の4点により示していく。

(1) 一貫性のあるキャリア教育のモデル

将来像の定義や考え方を基に『自分の力を最大限発揮し、生き生きと生活している姿』を見据え、小・中・高のどの児童生徒にも、一貫して将来像を軸とした取り組みを行うことができた。

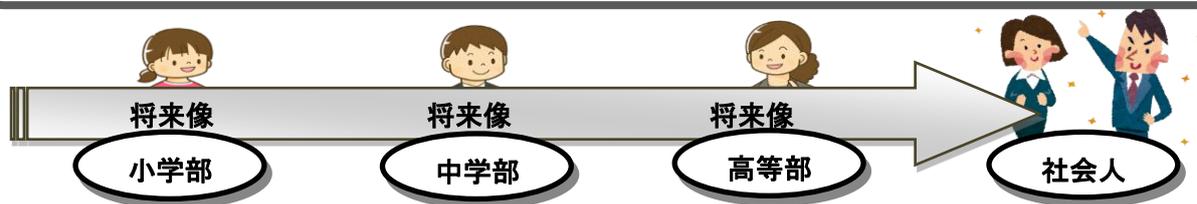


図2 一貫性のあるキャリア教育のモデル

(2) 系統性のあるキャリア教育のモデル

将来像に基づく実践を行い、各学部の「将来像作成の観点（表1）」にどのような系統性があるか、児童生徒の姿や将来像等と照らし合わせて検討した。その結果、将来像作成の観点について、次頁図3の系統性が見えてきた。

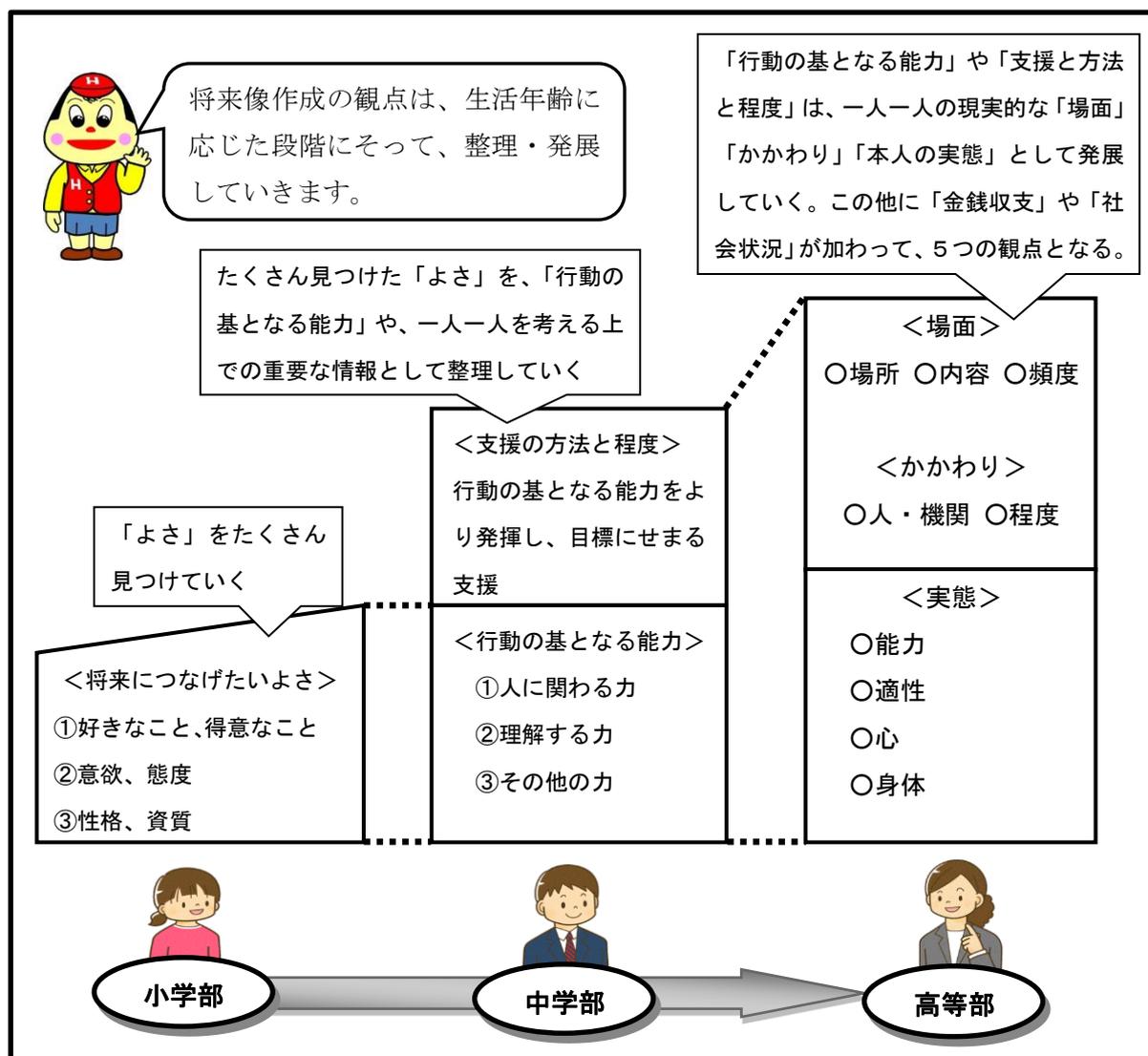


図3 系統性のあるキャリア教育のモデル

- 小学部段階の将来像作成の観点である「将来につなげたいよさ」は、小学部の6年間でたくさん見つけ、生かし、伸ばしていくものである。
- 小学部段階で積み重ねた「将来につなげたいよさ」は、中学部の段階では「行動の基となる能力」の土台として生かされ、整理されていく。
- 中学部段階で整理された「行動の基となる能力」と、それを発揮するための「支援の方法と程度」は、高等部の段階ではより一人一人の状況に応じる形で発展されていく。特に、「行動の基となる能力」や、「支援の方法と程度」は「場面」や「かかわり」「本人の実態」として、高等部の5つの観点につながっている場合が多い。

(3) 将来像が軸となる共通の視点による共通理解の深まり

将来像を軸にした取り組みの中で、将来を見据えた共通の視点で児童生徒を共通理解し、共通支援にむかう仕組みを構築することができた。(図4)

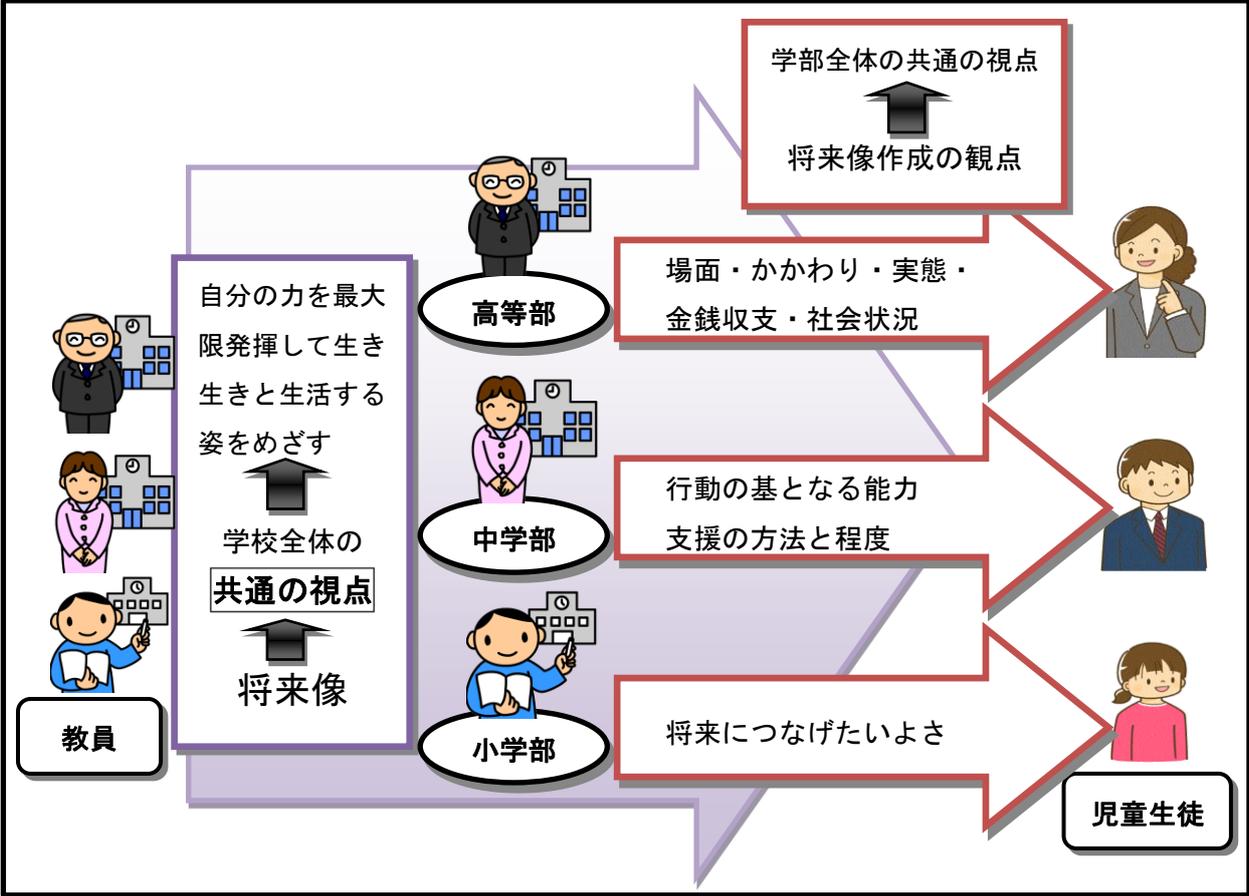


図4 将来像が軸となる共通の視点による共通理解の深まり

(4) 授業における「生き生きとした姿」の重要性の確認

前研究における各学部の研究報告では、「生き生きとした姿」をめざした実践報告や、実際の授業において生き生きとした姿から将来像作成の観点を導き出す取り組みが示された。(図5)

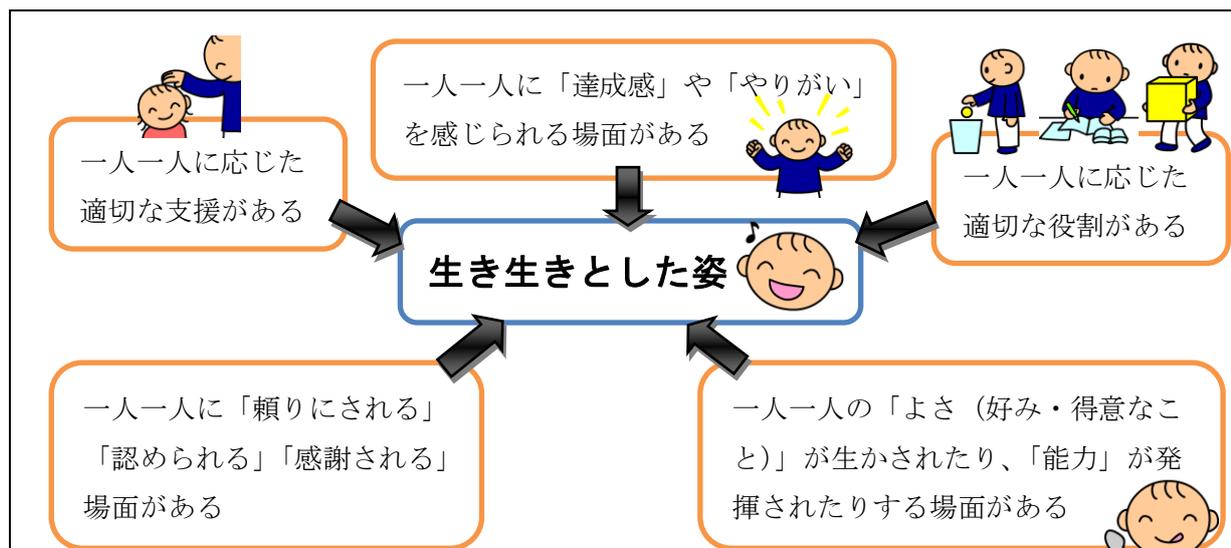


図5 授業における「生き生きとした姿」につながる要素

1-3 前研究の課題について

前研究の取り組みを経て、多くの成果を得ることができた一方で、検討すべき課題も見えてきている。そこで、今後に向けて取り組むべき課題は、以下のとおりである。

- ① より一貫性のある授業実践
- ② 各学部段階の実態把握についての整理
- ③ 学部間の将来像の引き継ぎ方法の確立
- ④ アンケート調査の分析結果の活用
- ⑤ 将来像の「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の位置づけ

このように前研究で課題が出されたが、実践を積み重ねていくことで解決していく課題が多くあり、今後の研究の在り方を聞いた教員のアンケート調査からも「前研究を引き続き深めていきたい」「実践中心の取り組みを行いたい」という意見が多く出された。

1-4 本校の課題について

前研究から将来像を軸にした取り組みを行ったことで、小・中・高の一貫性や系統性については、一定の成果を挙げることはできた。しかし、校内アンケートの調査結果を見ると、依然課題として考えている教員が多く、「一貫性・系統性についてさらに追求する必要がある」との回答が多かった。この問題に再度向き合うには、前研究で取り組んできた考え方を生かし、実践を積み重ねていくことを通して、他学部でどのような取り組みで何を大事に取り組んでいるかを知り、お互いが尊重し合える環境が必要であると考え。つまり、各学部間での取り組みについての理解を進める必要があり、そうすることで将来像を軸とした学部間のつながりが見え、一貫性、系統性が実感できるものになるのではないかと考える。また、前研究のキーワードである「生き生き」をどのようにとらえていくかについては、昨年度の研究協議会の中で本校としてのスタンダード化が必要との意見をいただき、児童生徒を見る共通の視点として必要性を感じている。

2 研究目的・研究方法

2-1 研究目的

本研究では、前研究の成果を土台に、さらなる実践を積み重ねていき、前研究や学校の課題に取り組んでいきたいと考える。また、教員の問題意識の中にも、実践中心に取り組み、困り感からくる問題解決を行っていききたいとの意見が多く出された。そこで、研究目的を以下の通りに設定した。

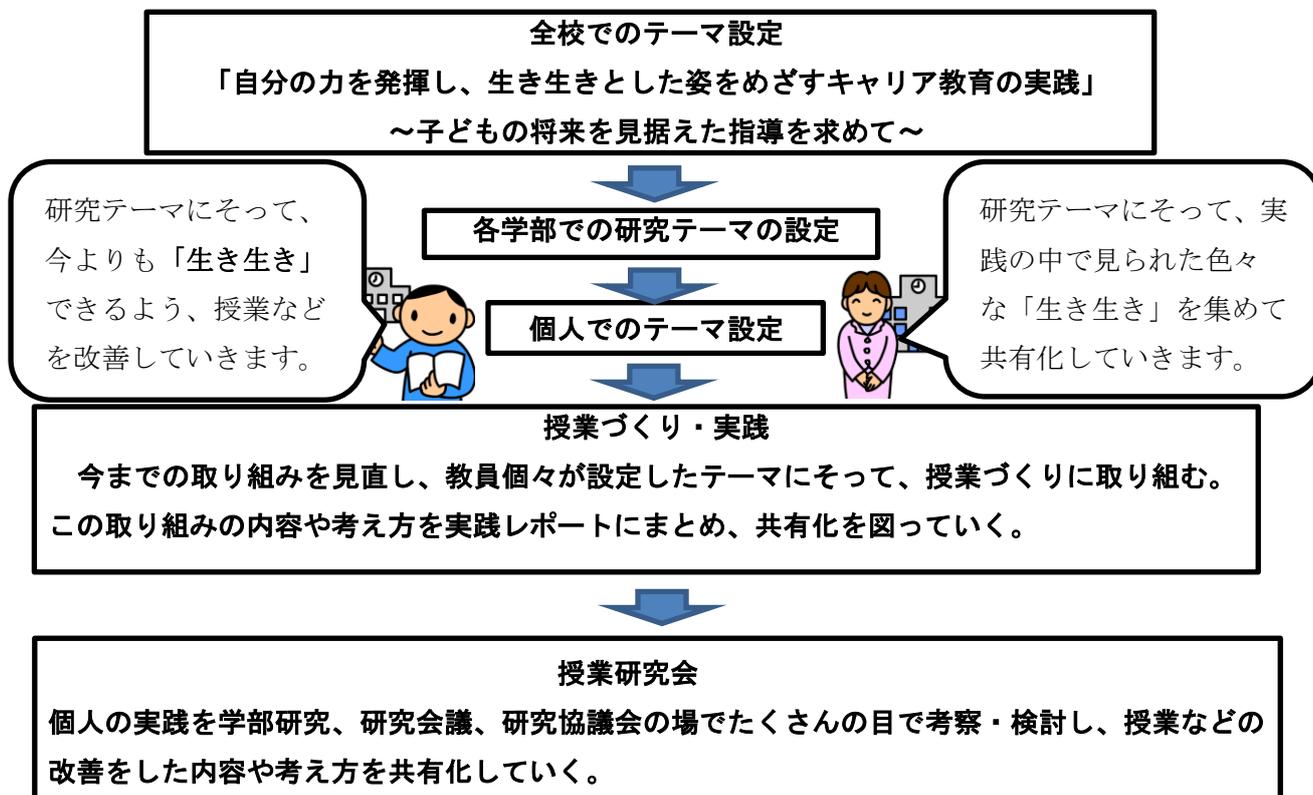
研究目的

前研究の成果を活かしながら、一人一人の子どもが生き生きと学習に取り組むことをめざし、キャリア教育の視点から授業のさらなる改善をはかる。

2-2 研究方法

前研究を通して、将来像を軸にしたキャリア教育のモデルづくりで課題解決にむけた一定の成果を挙げることができた。しかし、現在学校全体では小・中・高の一貫性・系統性についての問題意識が根強く残っている。この問題を解決するには、各学部間での取り組みについての理解を進める必要があり、そうすることで将来像を軸とした学部間のつながりが見え、一貫性、系統性の実感できるものになるのではないかと考えた。そこで、それぞれの学部がどんな考えでどのようなことを大切に考え、どう取り組んでいるのかを知り合う機会が必要であると考え、以下の方法で研究を進めることにした。

○基本的な研究の流れ



3 研究計画

3-1 3年間を見通した研究計画

前途の研究目的を達成するために、本研究は3年計画で1年目は事例的に、2年目は集団としての授業面から実践を中心に据えて研究を進めていく。そして3年目は、2年間積み重ねられた、児童生徒の生き生きした姿を導く実践を整理していく。その中で、個々の実践の中で見られた「生き生き」とした姿の共通点を整理していき、本校の考える「生き生き」とした姿についての共有化をはかる。これによって、個々に応じた一貫性・系統性のあるキャリア教育の取り組みを行い、実践力の向上、授業改善が行えるようにしていく。

平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
テーマにそって事例的に個人テーマを設定し、全校や学部の授業研究会を通して、実践の向上を図っていく。	テーマにそって授業から個人テーマを設定し、全校や学部の授業研究会を通して、実践の向上を図っていく。	2年間実践研究をした成果を発揮し、さらなる改善を図り、それまで実践で見られた「生き生き」とした姿について、共有化を図り、まとめていく。

3-2 平成 25 年度（1年次）の経過及び計画

月	研究に関する主な活動
4	研究会議：平成 25 年度の研究の進め方の確認、決定 実践研究の開始
7	研究会議：第 1 回授業研究会
8	研究会議：第 2 回授業研究会
10	研究会議：研究協議会に向けての確認
11	第 43 回特別支援教育研究協議会開催
12	研究会議：第 3 回授業研究会
2	研究会議：第 4 回授業研究会 「研究集録第 41 号」発行及び配布
3	研究会議：今年度の研究のまとめ

3-3 第 43 回特別支援教育研究協議会について

(1) 第 43 回特別支援教育研究協議会の主な日程

9:30~10:10		10:20~11:00		11:20~12:00	12:00~13:00		13:10~13:40		13:50~15:20		15:30~16:30	
授業公開①	移動	授業公開②	移動	ポスター発表	昼食・休憩	12:45~	受付②	全体会	移動	講演会	移動	分科会

(2) 木村宣孝氏による講演について

平成 25 年 11 月 13 日に木村宣孝氏による「特別支援教育における『キャリア発達を促す教育』の意義と在り方」についての講演が行われた。講演内容は、はじめに我が国における「キャリア教育」の位置付けと経過について述べられた後、キャリア教育についての基本的な考え方から、キャリア教育の意義や効果や能力観などを踏まえた上での、特別支援教育にもたらす意義と自閉症のある子どもへの考え方について述べられた。その中で、問題解決への方法の筋道を立て構造化することや、児童生徒の強みを活かすなど、本研究でも同様に大事な視点にしている点についての内容があり、研究を進めるにあたり、とても有意義な情報を得ることができた。

(3) 第 43 回特別支援教育研究協議会分科会指導者一覧

小学部	埼玉大学教育学部 特別支援教育講座	准教授	名越 斉子 様
	埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課	主任指導主事	佐野 貴仁 様
中学部	埼玉大学教育学部 特別支援教育講座	教授	葉石 光一 様
	さいたま市教育委員会学校教育部指導 2 課	課長補佐	内河 水穂子 様
高等部	山村学園短期大学	教授	黒澤 一幸 様
	埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課	指導主事	高井 賢一 様

<引用文献> (第 3 章の引用文献も含む)

- 1) 内閣府. 平成 23 年版 障害者白書. 2011
- 2) 福井信佳. わが国における障害者の離職率. 日本職業・災害医学会医誌第 58 巻. 2010. p266-269
- 3) 文部省・中央教育審議会. 今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について(答申). 1999
- 4) 文部科学省. 特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領. 2009
文部科学省. 特別支援学校教育要領解説総則等編(幼稚部・小学部・中学部・高等部). 教育出版. 2009

- 5) 文部科学省. 小学校学習指導要領. 2008
文部科学省. 小学校学習指導要領解説総則編、総合的な学習の時間編、特別活動編. 東洋館出版社. 2008
文部科学省. 中学校学習指導要領. 2008
文部科学省. 中学校学習指導要領解説総則編、特別活動編. ぎょうせい. 2008
文部科学省. 中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編. 教育出版. 2008
- 6) 国立特別支援教育総合研究所. 知的障害者の確かな就労を実現するための指導内容・方法に関する研究. 2008
国立特別支援教育総合研究所. 知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究－「キャリア発達段階・内容表（試案）」に基づく実践モデルの構築を目指して－. 2010
国立特別支援教育総合研究所. 特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック－キャリア教育の視点による教育課程及び授業の改善、個別の教育支援計画に基づく支援の充実のために. ジアース教育新社. 2011
- 7) 岩手県立総合教育センター 特別支援教育室. 特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック「理解編」. 2008
岩手県立総合教育センター 特別支援教育室. 特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック「実践・資料編」. 2008
岩手県立総合教育センター 特別支援教育室. 特別支援学校キャリア教育 啓発リーフレット（保護者用）. 2008
- 8) 東京都教育委員会. 知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の推進（平成 20 年度 障害のある児童・生徒の自立と社会参加を目指した指導の研究・開発事業（キャリア教育推進委員会）報告書）. 2009
- 9) 国立特別支援教育総合研究所. 障害のある子どもへの進路指導・職業教育の充実に関する研究アンケート調査報告書. 2009
国立特別支援教育総合研究所. 障害のある子どもへの進路指導・職業教育の充実に関する研究. 2010. p13-22
- 10) 愛媛大学教育学部附属特別支援学校. 卒業後の「働く生活」を実現するために－12 年間の教育内容の検討－. 2009. p53-58
- 11) 文部科学省. 「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引」－児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために－. 2006

- 12) 文部科学省・中央教育審議会 キャリア教育・職業教育特別部会. 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）. 2011
- 13) 国立教育政策研究所. 児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）. 2002
- 14) 三村隆男. 図解 はじめる小学校キャリア教育. 実業之日本社. 2004. p9
- 15) 国立教育政策研究所生徒指導研究センター. キャリア教育の更なる充実のために― 期待される教育委員会の役割―. 2011 . p4-5
- 16) Nevill&Super. The Values scale manual: Theory, Application, and research. Palo Alto, CA. 1986
- 17) Wehman, P & Kregel, J. Functional Curriculum for Elementary, Middle, and Secondary Age Students with Special Needs 2nd Ed. Pro-ed, TX. 2004